The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	昭和初期の川棚芝居「若嶋座」：『布哇報知』を手掛かりに
Author(s)	澤井, 万七美
Citation	演劇学論叢. 2013, 13, p. 7-34
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97437
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

昭和初期の川棚芝居「若嶋座」

――『布哇報知』を手掛かりに――

澤井　万七美

＊引用文における傍線部および《　》内の補記は、澤井によるものである。
＊引用文中の□は、判読難の文字を示す。
＊引用した文献においては、「若嶋」「若島」両方の表記が見られる。本稿においては、筆者の考察を述べる箇所では「若嶋」を採用するが、原文の表記のままとする際に「ママ」との注記は特に付さない。

はじめに

平成二四年（二〇一二）五月三日の『山口新聞』（一七面）において、「川棚芝居若嶋座」で活躍した中村喜鴈が、初代中村鴈治郎より授かった免状の話題が紹介されている（「初代中村鴈治郎の『免状』山口で発見」）。この記事にもあるように、山口県下関市（旧豊浦町）の川棚芝居「若嶋座」は、その範を上方歌舞伎に仰ぎ、多くの役者が実際に上方に修業に行っていた。このことについては、明治期の状況を中心に拙稿「川棚芝居『若嶋座』と上方」（『演劇学論叢』第八号、八二―九八頁、二〇〇六年）で報告した。『若嶋座一巻』の紹介などもあって、地方の歌舞伎一座の中でも注目度が高い存在であったと言えよう。

その若嶋座は、大正から昭和初期にかけて、大陸やハワイに遠征していたことが郷土史[1]に記されている。実は、山口県は「全国屈指のハワイ移民の先進地[2]」であり、第一回官移民に締める割合は三割に上ったという。演劇方面でも中心的役割を担っていたらしく、明治末期のハワイにおける劇団「旭座」の主要俳優の中にも山口県出身者が複数いる。

市川鬼団次（太夫元）　山口県大島郡安下　木下廣吉
阪東和昇（座頭）　山口県岩見島　土屋熊治郎

市川海老十郎	広島県	水戸清巾	
阪東荘花	熊本県益城郡	稲津庄太郎	
嵐橘葉之助	山口県三田尻	石丸信太郎	
市川市五郎	熊本県益城郡	市川市五郎	
市川家団次	広島市天満町	岡本梅太郎	
女形	広島市天満町	中村高柳	
女形	熊本県	市川小忠	
嵐國之丞	山口県田布施村	藤本弥吉	
小役（ママ）		市川小まん	

（『改訂増補　新布哇』藤井秀五郎著、明治三五年（一九〇二）、文獻社「第六十九節　演劇」より　二七四―二七五頁／復刻『初期在北米日本人の記録《布哇編》第一冊』平成一五年（二〇〇三）、文生書院　所収）

若嶋座遠征の時期には「岩国踊り」が現地で度々行われていたことも報じられている。東京や関西の一座ではない若嶋座が招聘されたのは、本論で示す広告などから見ても、地縁のからみがあったものであろう。ちなみに、若嶋座と同時期にハワイ興行で話題[3]となった新派の「近江二郎一座」（横浜の喜楽座を中心に活躍）を紹介した記事の見出しは、山口をしのぐ移住者を輩出した「広島」を強調した、「広島県備後の出身／人気者の近江二郎／渋い芸風で芝居もうまい好かれる男」（『布哇報知』昭和六年二月二四日　一一面）であった。

本稿では、在ハワイ邦人のために発行されていた新聞『布哇報知』の記事を手掛かりに、昭和初期の若嶋座の足跡を辿ってみたい。

一　ハワイ巡業前の若嶋座

昭和初期の若嶋座の状況をまず確認しておきたい。地元の郷土研究家・佐藤治によって編まれた『川棚芝居覚帳』（昭和一〇年（一九三五）、私家版）は、次のように記している。

一、明治《昭和の誤り？》における川棚芝居の傾向を一口に云へば大正時代の傾向をより以上露骨にしてゐると云へるだらう。即ち役者の質は大正時代より低下したが上演脚本は遂に新作物に迫拡大されて来た。勿論大正末期にも相当新作物が上演されてゐたが、これが昭和期になると一の分野を形成して、例へば岡本綺堂の番町皿屋敷、菊池寛の藤十郎の恋、同じく父帰る、額田六福の真如等は多くの新作物移植の中でも特に自信あるもので、こうした新作物への研投と発表によつて時代に遅れまいと努力する川棚役者の良心的な

態度は誠に涙ぐましいものがある。然し乍らそう云つた新作物をその侭無智な地方観客層が受入れてくれるか否かは疑問であるし、又それ以上に疑問としなければならないのは役者自身の力量の低下が果して新作物をどの程度迫正しく生かしてくれたかと云ふ事であらう。

旧作ばかりでなく、岡本綺堂・菊地寛・額田六福等の新作にも積極的に挑戦していたことは、旧豊浦町に遺された資料からも読み取ることができる。「市川中王」の署名のあるノート（台帳・書抜きなど混在）の中に『修善寺物語』が見られ、また市販の書籍でも、大正から昭和期の新作戯曲類がいくつか保存されている。その一部を紹介する。

『龍女集』（岡本綺堂、大正一〇年（一九一九）、春陽堂）
『真如　外五篇』（額田六福、大正一一年（一九二〇）、文泉堂）
『菊地寛戯曲全集』第二巻（菊地寛、大正一二年（一九二二）、春陽堂）
『現代戯曲名作集』（中村吉蔵代表、昭和四年（一九二九）、改造社）

川棚役者最後の世代の一人である「市川中王」の印があるものとしては、『赤垣源蔵』『実録先代萩』『加賀鳶』『孝子善吉』『忍ぶの惣太・縮屋新助』（いずれも黙阿弥作、昭和三年（一九二八）刊、岩波文庫）等の所蔵が確認されている。

なお、明治から昭和期にかけての『歌舞伎新報』、『新演芸』、『演芸画報』、『演劇界』といった演劇雑誌類も遺されている。

再び『川棚芝居覚帳』に戻る。先ほどの引用の続きに、「ハワイ遠征」の件が紹介されている。

一、地方巡業は引続き広範囲に亘つて行はれたし、又現在行はれてゐる。
朝鮮には勿論大正時代から再三出かけたが満州方面に迫進出し、特に筆を更めて大書しなければならない事は昭和五年約一ケ年の予定でハワイ遠征を敢行したことである。実はそれ迫に短期間ではあつたが俳優相互の意志の疎通を欠き、一時若島座二分騒ぎといふセンセーショナルな事件があつたが、それに就ては又の機会に述べるが、その紛争が円満解決して一同が遠く故国を離れてハワイ迫興行に出向いたことは慥かにその興行の成績如何を問はず、威張つても良いだらう。
（前掲『川棚芝居覚帳』）

右の記事からもほの見えるように、昭和初期の若嶋座は、明治期に比べるといささか低迷状態であった。こと

に目を引くのは、「一時二分騒ぎ」という箇所である。この問題については次章で触れる。

さて、地元山口県の新聞は、このハワイ巡業をどのように報じていたのだろうか。

「川棚若島座一行」

徳川幕府の初期に組織され毛利公の御前芝居として長い間伝説をそのまゝに受け継いで居る山口県豊浦郡川棚村に根拠を置く農民劇の一団いはゆる川棚芝居若島座と称して時折り九州、中国を巡業する歌舞伎の一団が某人の斡旋で近く南米巡業を決行する事になりそれに先立ち下関某座にて開演の由

（昭和五年（一九三〇）六月二〇日『関門日日新聞』夕刊三面「演芸界」）

最初は、こちらも日本人移民が多い「南米」での巡業が予定されていたらしい。「ハワイ」巡業と明らかになるのは、同年八月になってからである。

「川棚歌舞伎／海外公演」

豊浦郡川棚□山田歌舞伎座一行は米領ハワイ海外興行をなす事とし目下旅行手続中であるが一行は八月二十九日同地出発　明年二月末日帰郷の予定

（昭和五年（一九三〇）八月二〇日『関門日日新聞』夕刊三面「演芸界」）

ほぼ同時期に、ハワイでもこの若嶋座巡業が報じられている。

「近々に来布する歌舞伎若島座一行　来月六日入港の龍田丸にて一行十五名が到着する」

歌舞伎芝居の若島座一行が今月二十九日横浜出帆の龍田丸に乗船渡布と確定の電報が去る十二日朝当市の春乃家一郎（金森氏）の許に達した。一行は十五名で山口県川棚出身が多くその内の幹部は大阪で修業した者が多いといふ事である。ホノルル着は来月六日であるから九月中旬には久しぶりで純歌舞伎芝居が見られる筈である

（昭和五年（一九三〇）八月一七日『布哇報知』五面）

右の記事にある「一行十五名」の内訳について見てみよう。昭和五年一〇月一〇日初日の紹介記事（『布哇報知』同年一〇月九日　二面）からは、次の役者名が明らかである。

①中村玉六
②中村柵《珊》幸
③中村柵《珊》京
④中村桂之助
⑤中村時待呂
⑥中村みのる
⑦市川中千代
⑧市川市雀
⑨市川太老
⑩澤村小徳（子役）
⑪片岡緑太郎

あとの四名については、鳴物・義太夫など音曲関係であったと思われる。「床の高見太夫」が座付でいたらしいということは、『布哇報知』（昭和六年（一九三一）三月二五日九面）から明らかである。また「義太夫　勢見太夫」「はやし　杵屋民丸」も、後述するラジオ放送の際に見え名である（『布哇報知』昭和六年（一九三一）七月二五日　九面）。『川棚芝居覚帳』によれば、昭和初期には座付の義太夫・三味線に「竹本品門太夫」「豊沢団丸」、下座に「杵屋治郎」「杵屋梅子」「杵屋喜和子」といった面々が揃っていたという。(4)

二　市川市雀との同座

ここで若嶋座ハワイ巡業における初めての広告（図1）を見ておきたい。『布哇報知』昭和五年（一九三〇）一〇月九日二面に掲載され、「大阪相生座　市川市雀」と「山口縣川棚一座　中村玉六」が双璧の扱いとなっている。この広告が紙面の四分の一をも占める大きさであることから、請元の若嶋座へのテコ入れの強さ(5)も窺い知ることができよう。

「阿波の鳴門　八陣記　新渡来歌舞伎今晩初日開演」
若島座一行の新渡来歌舞伎芝居は愈今晩正六時半からオアフ劇場に於て華々しく初日を開演する。座長中村玉六は山口県川棚座である立女形市川市雀は大坂相生座であるから手揃ひ選抜の若島座と云つてよかろふ。今晩は式三番から引抜きで新調の衣裳見せがある確に美麗であるに違ひない。本狂言八陣記は毒饅頭の場、船場、清正本城の三場で布哇では近年珍しい出し物である。大切りに阿波の鳴門で観客の涙を絞るであろふ、リザーブ入場券は毎日午前中は電話五四一九で売り出し午後はオアフ劇場で売る事になつて居る。主催者は栗崎市樹氏で辻田賢三氏が後見し金森一郎

氏が実務の世話に当つてゐる

（昭和五年（一九三〇）一〇月一〇日『布哇報知』四面）

「市川市雀」については、大阪の相生座という劇場ともども『近代歌舞伎年表』の記録には見えず、詳細はわかっていないが、この巡業において「立女形」として迎えられている。当時、若嶋座には、松本いてう（二世）という役者が立女形を務めていたはずであるが、幹部クラス中村喜鴈とともに巡業には不参加であった。『川棚芝居覚帳』では「円満解決」とされていた内部の問題が影響していたのかもしれない。というのも、若嶋座のハワイ巡業期間中、中村喜鴈一行が山口座（山口市）や大山劇場（下関市）に出演していたという記録[6]が見られるからである。

座組については、男性の役者のみであったことも高く評価されていたようである。伝統を守っている、というイメージにつながったゆえであろうか。「男優揃ひ」に関する記事の一部を紹介する。

浅間丸で来布した歌舞伎若島一座は近々当市で開演するが下手な女優などを加へず芸達者な男優揃ひが気に入つた（早く見たい生）

（昭和五年（一九三〇）一〇月五日『布哇報知』八面「カバチ」）

「初お目見得する歌舞伎若島座一行　オアフ劇場に於て明晩正六時半から」

衣裳かつら総て新調して来布した新渡来大歌舞伎若島玉六一座は愈明十日（金曜）からオアフ劇場に於て初お目見得興行を開演する。毎夜正六時半に開幕し舞台装置も大急行で作り幕合を短くして早くはね翌日にさはらぬ様大いに努力するさうである

入場料は特等一弗五十仙、二等一弗二十五仙、三等一弗の三種で子供は五十仙である。一座は男優揃ひであり手揃ひであると云ふので好劇家から初日を待たれて居る

（昭和五年（一九三〇）一〇月九日『布哇報知』二面）

ハワイ巡業のために衣裳・鬘すべてを新調したということは、相当な資金力のあるものが後ろ盾についていたものと思われる。これらは公演に先立ち、現地呉服店のショーウインドウに飾られた。

「若嶋一座の衣裳は畑呉服店にて陳列」

来月二日着の浅間丸にて来布する大歌舞伎若島玉六一座の新調衣裳及び鬘は既に到着しキング街の畑呉服店のショーウインドに陳列してある

（昭和五年（一九三〇）九月二七日『布哇報知』三面）

こうした前宣伝によって期待の高まる中、いよいよ開幕した若嶋座は、ハワイでどのように受けとめられたのか。

三　現地での評価

昭和五年（一九三〇）一〇月一〇日の初日の様子は、次のように報じられている。

「不景気は何所に　若島座の大当り　布哇に見られぬ出し物揃ひ　今晩は玉藻前」

昨晩オアフ劇場で華々しく初日を打ち出した新渡来歌舞伎若島一座は男優の手揃ひと特別新調の衣裳、其れから布哇で滅多に観られぬ出し物揃ひと云ふので人気を煽り、不景気など他所のけ大変な大入りであつた。昨夜は阿波の鳴門で泣かせ八陣記の毒饅頭の場、船場、清正本城の場で実の入つた成る程と思はせる芸を見せたが今晩は玉藻前と云ふ大物で充二分に力を見せる筈である

若島座十八番

玉藻前大序魚釣より奈須野ケ原七化迄宙つり早替り

《以下役割》

（昭和五年（一九三〇）一〇月一一日『布哇報知』三面）

まず、演目が「布哇で滅多に観られぬ」ものばかりであったということが取り上げられている。『傾城阿波の鳴門』『八陣守護城』などの手堅い義太夫狂言が、当時のハワイではなかなか観る機会がなかったというのである。また、場面別の評価についても、翌一二日の記事で窺い知ることができる。地元の山口県下の新聞等ではここまで詳しく報じられることがなくなってきているだけに、若嶋座の芸のありかたを知る上で貴重な資料だと言えよう。いささか長くなるが、左に該当箇所を引用する。

「若島一座の初日雑感　痛む胃を押へながらの記」

《略》式三番引抜きで新調衣裳の陳列は実に綺羅びやかであつたが、あれを着けてだんまりをやつたら一層引き立つたろふ

▲阿波の鳴門どんどろ大師の場は市川市雀のお弓と澤村小徳のお鶴で泣かされたが前狂言とするより切りの方がよかつたろふと思つた。尼さん二人のおつき合ひ少々念が入り過ぎたやうだ

▲八陣記守護城、総じて衣裳のいる出し物だが、あれだけ立派な衣裳を揃へて見せた芝居は今までに先づ無い、錦絵といふ所だ。市川太老の家康中村柵京の三左衛門、中村玉六の清正いづれも揃つてソツのない場面

▲最も清正らしい貫禄の見へたのは船場だつた、家康から贈つて来た鎧びつから目を離さず雛絹から太刀を受けとるあたり申分なしだ。熊本本城の□は、せり上げの高殿まで拵へた舞台の苦心も買はねばなるまい

▲自害した雛絹を中に二人の母の嘆きはどうも困つた、声が響いて騒々しい感を与へた　中村桂之助の雛絹とてもトテシヤンだ。あれで男かい死なすな〳〵なんて云つてた人もあつた

▲一枚看板のあの役者を引き抜いたら芝居にならぬといふ一座ではない。図抜けて斯ふと評されぬ粒揃ひの一座と云つてよかろふ、鬘、衣裳も新調で俳優手揃ひであるといふのが若島座の強味だ

（昭和五年（一九三〇）一〇月一二日『布哇報知』五面）

際立った大スターを擁する一座ではないものの、「粒揃ひ」であるとされている。若嶋座としてはこの評が不本意だったのか、病気のために遅れてハワイ入りした若手二枚目の嵐時三郎[7]の名をアピールする一〇月二六日の広告（図2）では、舞台姿の写真が二葉、紙面を飾っている。

二日目は若嶋座の得意演目である『玉藻前』が披露され、これもまたハワイの人々の喝采を浴びた。

「菅原伝授と白石噺　今晩の歌舞伎芝居」

オアフ劇場の歌舞伎若島座は二日目（土曜）玉藻前を出したが布哇には珍しく太公望の魚釣りから見せ、悪狐が唐より日本へ渡る所は宙づりで大喝采、中村時侍呂の狐が早替はりやら宙乗りで活躍した、何しろ衣裳が金ピカの新調と来て居るので舞台面の美しいこと見せ場である三段目道春館では市雀の萩の方、綺麗だと定評の桂之助の桂姫、柵幸の初花、座長玉六の金藤治で床もよく大時代の歌舞伎気分を漂はせた。三日目である今晩は寺小屋の段と白石噺の揚げ屋が見ものである。

（昭和五年（一九三〇）一〇月一三日『布哇報知』二面）

「大時代の歌舞伎気分」への称賛は、先にも触れた「男優揃ひ」、すなわち女優を加入させない古典的な座組への評価ともつながっているように思われる。ちなみに、こ

の若嶋座に途中から参加する市川右田次（「右多次」「右田次」とも）は、昭和二年（一九二七）にハワイとアメリカ本土で歌舞伎公演を打っているが、それは女優を交えた一座[8]であった。また、若嶋座と近い時期にハワイ巡業を行っていた歌舞伎一座も、中山延見子という女優を看板にしており、男優のみの一座は意外に少なかったようである。

なお、若嶋座が長い伝統を持つ一座であるということも、かなりの長文で紹介されている。一部抜粋して紹介する。

「三百五十余年続く若島座と其の由来　明晩から向ふ六日日本館で開演する」

新渡来歌舞伎若島座は明二十七日から六日間アヽラ街日本館に於て入場料一弗均で再開演する事になつた。若島座は山口県の川棚に生れたのであるが長い歴史を有するさうである。《中略》巡業に出てゐても年に二回は帰つて来て上覧芝居を催したさうである。そんな関係で座元は帯刀を許され且つ豊富（ママ）太閤から賜つたといふ由緒ある黒白二つの面を毛利家から下された　黒い面は現に下ノ関の亀山八幡宮に納めてあり白い面だけ代々一座に伝へて式三番双（ママ）には必ず使用して居り明晩は日本館の初日にも用ひるさうである。斯くて御前座は座元にちなんで若島座と改称し今日に及んだもので三百五十余年の由緒ありと云はれて居る。御能芝居の始めは川棚の山奥に平家の隠遁者の村落があり其処から出たものと伝へられてゐる　惜しい事は之れ等の詳しい書類は川棚の眞言寺院に納められてゐたが類焼の厄に会つたといふ事である《以下略》

（昭和五年（一九三〇）一〇月二六日『布哇報知』五面）

この「由緒」を説いた記事への反応などについては、続く昭和五年一一月の一か月分、『布哇報知』の所蔵が国会図書館にはないため把握できていない。同年一二月二二日の記事[9]から、この頃はマウイあたりを巡業していたかと推測される。この巡業後の日本館での歳末興行から、入場料が「七十五仙均一」となっている。入場料を下げ、多くの観客を呼び込む戦略を取ったものであろうか。

ハワイでは珍しい、あるいは初めての演目を打ち出していったことも、耳目を集める成功要因となったものと思われる。

「今晩重の井子別れ　若嶋一行の千秋楽」

オアフ劇場出演中の新渡来歌舞伎若島座は今晩が愈

千秋楽である。当分の別れと云ふので今晩は布哇には珍しい有職鎌倉山を前狂言に据へ、大切りには義太夫党を喜ばせる恋女房染分手綱重の井子別れの場を出す、市雀の重の井と小徳の三吉で泣かせるだろふ　開演は六時半で入場料は一弗二十五仙均一である

（昭和五年（一九三〇）一〇月一八日『布哇報知』四面）

「大坂御堂前　血汐の仇討　今晩の若嶋座　全通しの上演」

日本館にて開演した若嶋座《略》二日目の今晩は大阪御堂前仇討と云ふ珍しい芝居を全通しで力演する

（昭和五年（一九三〇）一〇月二八日『布哇報知』二面）

「若島座芝居　八犬伝勇士の大活劇」

昨夜から日本館で開演した歌舞伎若島座は珍しい里見八犬伝を出し大人気であつた。今晩は昨夜の続きで八犬伝勇士の大活劇が見ものである

（昭和六年（一九三一）一月八日『布哇報知』五面）

《広告》

若島座

大歌舞伎

本日初日狂言

布哇初めての出し物

大　序……吉祥院に於てお七吉三郎恋愛の場（伊達娘恋の緋鹿の子）　八百屋お七　全通し

二幕目……本郷八百屋に於て吉三郎剣の詮議の場

三幕目……お七半鐘を打つ場

中村桂之助十八番お七人形仕立

四幕目……お七半鐘打ちし科に依つて火あぶりの場

五幕目……お七吉三郎ゆめの場迄

大道具大仕掛

此の狂言は是非御一覧下されたく伏して願上候

◆入場料　五十仙

於　日本館

（昭和六年（一九三一）二月二三日『布哇報知』二面）

人形振り（右の広告では「人形仕立」）を得意とするあたりにも、上方歌舞伎の系譜が感じられる。右の例以外にも「大道具大仕掛け」という宣伝文句が貼られていることが多いが、現時点では舞台面を記録した写真は確認できていない。

興味深いのは、若嶋座の芸風が「布哇向き」であるという言辞が見られることである。

オアフ劇場の若島座一行の歌舞伎は布哇向きであると云ふので毎晩精勤して居る好劇家が沢山ある（今晩は猫騒動生）

（昭和五年（一九三〇）一〇月一六日『布哇報知』四面「カバチ」）

では、どのような芸風がハワイの観客に好まれたのか。役者個々人へのコメントも含めた劇評を引用する。

「四日目替り先代萩　竹の間より対決まで四幕　芦若の仁木に右田次の勝元」

《略》一番の見せ場である尼ケ崎の段では、現れ出たる明智光秀で芦若の光秀充分の重味を見せてゐたが、ともすると軽く運び過ぎる嫌ひがあるのは、こつてりした芝居を好む布哇の観客には受けがどうか、然しく さ味のない所は流石だ　玉六のさつき矢張り若島座を率ひるだけある。右田次の重次郎は楽だ。桂之助の初菊きれいだ。市雀の操どうしても此のひとの役どころよくしてゐたが首の重きの仰山さが目につく、中王は若いのによくやる清正も一栄の遠く及ぶ所でない。だが悪達者にならぬことだ将来がある。大切『五條の橋』は右田次の牛若、芦若の弁慶とプロにあつたが入れ替つて右田次の弁慶に桂之助の牛若で演じた。見違へるほど肉付きのよくなつた右田次には弁慶も向く桂之助の牛若あまり繊弱にも見へるが、此の弁慶ならどしても此の牛若だ、但し両人とも熱演してよかつた。時々大切には新作も悪くない（ユの字）

（昭和六年（一九三一）三月二六日『布哇報知』三面）

「こつてりした」といえば、上方歌舞伎の形容詞としてよく用いられていた言葉である。右の記事では、ハワイの観客があっさりした芸ではなく、「こつてりした芝居を好む」と明言されている。ハワイの観客の上方風好みは、観客のかけ声についても言えるかもしれない。まず、東京と上方とのかけ声は、どうやら異なるものであったらしい。

『タヤ』

これが成田屋といふ事である、これは江戸らしい褒詞である。

『ナアリコマヤア――』

これが大阪の褒詞である、打球とピンポン程の違ひが

ある。又それでよいのかもしれないが、そのまどろこさが見物の全体を通じてゐる。

『まアつてました』

『イヨーカワチヤーの色男』

なんて気が長すぎる。

（大正一一年（一九二二）『演芸画報』四五頁「関西の見物」浪花蘆平　特集「東の見物西の見物」より）

このように、東京風のかけ声は短く鋭いが、上方風のそれは長く伸ばす傾向にあったとされる。ハワイにおいてはどうか。歌舞伎ではないが、剣劇の遠山一座が来布した時の評から推測してみよう。

所でお客の方ではクサすにしても賞めるにしても、今少し上手になりたいものだ　先日も遠山満の剣劇の見物から遠山が見得を切つた所で『遠山ツ』と声をかけた人があつた。勿論ほめ言葉であつたが、ブツキラ棒に遠山ツと来たので、押さへ付ける様な叱り付けるやうな感じがした。同じ遠山でも『ヨー遠山』とか『遠山アーツ』てな調子に願いたいものだ

（昭和二年（一九二七）一一月一八日『布哇報知』五面「電車日誌」）

短く鋭いかけ声を「ブツキラ棒」「押さへ付ける様な叱り付けるやうな感じ」と否定的にとらえ、「ヨー」、「～アーツ」などと、最初や最後を伸ばす方がよいとしている。これは上方と類似している。こうしたかけ声は、場の雰囲気に対して一定の影響力を及ぼすことからも、ハワイの観客が上方好みであったと考えられる。すでに述べたように、昭和初期のハワイにおいては、広島県・山口県等の西日本からの移住者が多かった[10]ということは看過しがたい。ハワイの興行師が若嶋座を選んだのも、山口県という地縁に加え、上方らしさが濃厚な芸風を保持していたということもあったのではないだろうか。昭和期においても上方歌舞伎との接点があったことは、市川市雀に加え、次章で述べる二人の役者の存在からも明らかである。

四　市川右田次と実川芦若

若嶋座がハワイ巡業を開始してから半年近く経った頃、新たな役者二人が日本から参加するということが『布哇報知』に連日報じられた。時には紙面の三分の一を占める写真入りの華々しい広告まで見られる（図3）。

「日本舘で芦若右田次の御目見得　二十三日から歌舞伎開演」

新渡来歌舞伎俳優実川芦若と市川右田次は来る十九日入港の秩父丸で来布するので此の両優を加へた若島座は来る二十三日（月曜）から日本舘で開演する手揃ひの所へ大物が二枚加はるので近頃の大歌舞伎が見られる訳だ

（昭和六年（一九三一）三月一六日『布哇報知』二面）

ここで「御目見得」となった「実川芦若」と「市川右田次」は、いずれも川棚役者ではない。管見では主だった番付等に名を見出すことはできなかったが、この記事では写真入りで大々的に紹介されている。

実川芦若については、「実川延若門下の老練な河内屋実川芦若」（三月二二日五面）と紹介されており、素顔での写真を見ても、老境に差し掛かっている年代かと推測される。なお、映画『実録忠臣蔵』（大正一〇年（一九二一）、牧野省三監督・脚本）の「服部市郎右衛門」役にその名が見える。

市川右田次については、ハワイよりアメリカ本土のサンフランシスコ興行の方で知る人も多いかもしれない。「海を渡った歌舞伎・左団次と右田次」（歴史公文書探究サイト『ぶん蔵』http://bunzo.jp/archives/entry/001497.html）では、左団次のソ連公演に先立つ歌舞伎の海外公演として、市川右田次のサンフランシスコ公演を挙げている。この記事によれば、日系移民への排斥ムードを憂慮したサンフランシスコ駐在領事の井田守三は、日本文化の紹介によって親善を図るべく、アメリカ公演の実績がある市川右田次一座をアメリカに呼び寄せている。右田次は昭和二年（一九二七）九月一日に日本を出発し、アメリカ西海岸の日系人向けの興行を六週間の予定で行ったとのことである。右田次を座頭に、総勢一九名（『聯合通信』（昭和二年四月三十日）では一一名）という座組であった。これを知った井田領事がフェアモントホテルでの公演に招聘したのである。演目は『伽羅先代萩』であったという。このとき、西海岸だけでなく、ハワイでも興行を行っている。遡ってみると、昭和二年九月に来布し、ホノルル・ヒロ・マウイ・リフエでそれぞれ公演を行っている。『布哇報知』（昭和二年七月三一日　四面）によれば、出身は香川県高松市、伯父の阪東壽調のつてで「阪東桃太郎」の名で子役デビューし、其の後市川右団次の門下に入って「市川右多次」（ママ）と改名した。大阪浪花座等に出勤、中村鴈治郎・片岡我童・市川荒五郎・嵐吉三郎の一座に加わったこともあったという。また、東京の中村仲太郎と組んで九州巡業も行っていた。

昭和六年の若嶋座客演においては、両人とも単身で来布しているらしく、いわば「助っ人」という位置づけと見てよい。若嶋座のハワイ巡業に参加することになった経緯は不明である。現時点では、若嶋座と上方歌舞伎とのつながりで、何人かの斡旋があったものかと推測するにとどめる。

「右田次と実川芦若　明十九日秩父丸にて来布」
歌舞伎若島座に走せ加はる新渡来俳優実川芦若と市川右田次は明十九日入港の秩父丸で来布する。而して若島座はこの両優を加へて来る二十三日（マンデー）から日本館に於て新渡来御目見得興行を開演するが何れも一座を率ひる中村玉六、市川右田次、実川芦若が腕比べとも云ふべき舞台であるから見ごたへのある大歌舞伎となるだろふと期待される。尚日本館は花道裏の楽屋を拡張して居る。
（昭和六年（一九三一）三月一八日『布哇報知』三面）

昭和六年（一九三一）三月二三日『布哇報知』四面の広告は、紙面の五分の一ほどを占める大きさであり、右田次・芦若の舞台姿の二葉の写真が掲載されている。
翌日に掲載された劇評は、彼らを「近年にない大歌舞伎」とし、役者一人ひとりの演技について言及している。

「三頭目の顔ぞろへ　近年にない大歌舞伎　日本舘の二日目は前狂言『盛綱首実験』と『引き窓』昨夜は大入り札止め」
新渡来の実川芦若と市川右田次を加へた若島座は昨夜から日本館に於て初日をあけたが芦若、右田次、玉六と云ふ三座頭の顔ぞろへ而も大衆本位の入場料一弗均一とあるので一層の人気を呼び大入り札止めの盛況であつた。菅原手習ひ鑑の車曳きでは右田次の梅王が最も光り絵にある様な大時代の見得に拍手急霰の如しだ、先年来た時より肥満して居るので斯ふした荒事にも向き台詞ともに上々珊京の時平、梅王と芦若の松王を前にして引け目を見せず立派な時平公、源蔵住家の場では玉六の源蔵悪かろふ筈はなく、時侍呂のとなみ良くしてゐたが顔の粧りに念を入れて欲しかつた。市雀の千代いい出来だ只惜しむらくは歎きのあたり余りに震ひ過ぎることだ。さん京の玄番も上々この人何でもこなせる。芦若の松王丸ぢみな演出だ、芝居をし過ぎぬ所が気に入つた、地味でいゝと玄人筋の評だつたがホノルルを踏み出したら其の地味に手加減が要らふ。但しホノルルでは目をむかずあの地味で

行つて貰ひたい／鳥辺山は右田次の半九郎と桂之助のお染総じてよかつた。半九郎は延十郎よりも右田次を取る然しお染は延美子の方がもつと色が出てゐた様だ。尤も女と云ふハンデキヤツプはある。ちゃやばの色模様から父の手紙を見て半九郎の驚愕のあたりい、場面だ桂之助のお染は綺麗だそして半九郎より外に異性を知らぬ初々しさの気持をよく出してゐた。両人の花道の引つ込み素敵。みのるの女形は良いけれども声に一段研究がいる無理な注文かも知れぬが。中王の源三郎一徹者の若ざむらいらしくてよかつた、玉六第二世自重して修業することだ

（昭和六年（一九三一）三月二四日『布哇報知』五面）

右の記事では、芦若の芸風が「地味」であり、それが玄人好みで良いと評されている。しかしそれが通用するのはホノルルだけで、ハワイの他の地域では「手加減」が必要とも記されている。こうしたことから、ハワイにおいて「ホノルル＝都会」という意識を持っている観客の存在が透けて見えるようにも思われる。

この評者は、右田次・芦若・市雀にばかり寄ることなく、川棚役者にも目配りをしている。たとえば中村珊京は、戦後の若嶋座を最後まで守った一人であるが、このハワイ興行では客分の右田次・芦若に引けを取らない好演を広い芸域で見せていたようである。女形の桂之助は、別の一座の「歌舞伎女優」と比較されつつ、その美しさと初々しさを醸し出す演技を称賛された。化粧や発声に難が指摘された役者もいるが、若嶋座の役者は座頭の玉六から若手の中王に至るまで、総じて好意的に評価されている。大阪に拠点を置いていた役者との芸質の差は、ほとんど無かったと見なされていたようである。

なお、若嶋座を「関西（上方）歌舞伎一座」であると思い込む人もあった。

「電車日誌」

ホノルルでは中村玉六一座と名乗る関西歌舞伎が上等の成績で実川芦若、市川右田次特別加盟とかで忠臣蔵先代萩を出して侮れない人気がある。なんでも大きい声を出す役者が持てるのだ

（昭和六年（一九三一）九月二三日『布哇報知』九面）

昭和六年に入ると、「芦若右田次一座」と呼ばれているケースも時折見られる。これは歌舞伎という芸能の性質上、座頭格の役者が一座の個性をある程度規定するということを反映しているとも考えられる。そして若嶋座の

芸風が、いわゆる民俗芸能のような雰囲気ではなく、上方（関西）歌舞伎の一座とも思わしめるようなものであったことの一つの証左にもなるのではないか。

五　巡業の終盤

こうして各地を巡業するうち、昭和六年（一九三一）五月一一日『布哇報知』（三面）にて、若嶋座の帰国予定が伝えられる。昭和六年二月まで、という当初の予定よりも相当延長したこととなり、帰郷の思いを強くした座員も増えてきたためかもしれない。

映画とほぼ同じ「五十仙」という手軽な料金で、さまざまなレパートリーを繰り広げての飽きさせない興行で一定の成功を収めていた若嶋座は、終盤には「幕無し」「両面劇」という形態をとる。『加賀見山旧錦絵』と『仮名手本忠臣蔵』の組み合わせなど、演じる方はまさしく大車輪ではなかったかと推察される。

「幕なしの大歌舞伎　鏡山（ママ）四幕と忠臣蔵八幕」
近々帰国することになつた歌舞伎若島座一行のお名残興行は来たる十四日から日本館で開演するが今回は従来の記録破りの大努力で役者も舞台方も競争で幕無し力演をする筈である。十四日の初日は鏡山四幕と忠臣蔵八幕、都合十二幕を両面劇の形式で一晩の内に上演し入場料は五十仙均一と云ふ大勉強である
（昭和六年（一九三一）五月一一日『布哇報知』三面）

また、その御名残興行に、同じく来布していた「銀座レビュー団」の指導者でもある阪東三平・三壽次[11]が特別出演している。幕間での手踊りには、在ハワイの芸者が出囃子を務め、文字通り花を添えた。この二人は、若嶋座と同じ昭和五年の一二月に来布した銀座レビュー団の舞踊主任で、夫妻ともに阪東三津五郎（八世）の弟子であったという。[12]

「幕なし歌舞伎芝居　日本館に於て若島座一行のお名残り興行」
合同巡業でお馴染み深い歌舞伎若島座一行は近々帰国する事になつたので市川右田次、実川芦若合同の上に舞踊の師匠をしてゐる阪東三平並びに阪東三壽次を客員に加へ愈今晩から十七日まで四日間アアラ街日本館に於て御名残り興行を開演する。入場料は五十仙均一と云ふ大勉強で、役者は早拵へ舞台方は大車輪で役者と競争して忠臣蔵と鏡山の二つの芸題を一幕

替はりに幕無しで演ずるさうである。特別出演の阪東三平は忠臣蔵の薬師寺次郎左衛門、斧定九郎、寺岡平右衛門の三役を演じ、阪東三壽次師匠は得意の舞踊を見せる筈である

《役割あり》(昭和六年(一九三一)五月一四日『布哇報知』三面)

この阪東三壽次・三平は、続く六月・七月の日本館公演においても同様に友情出演している。

さてここもう一つ、若嶋座がハワイに遺したものに注目したい。「ラジオでの旧劇初放送」である。意外なことに、昭和六年半ば以前にはなかったという。

「日本語放送会で旧劇『寺小屋』(ママ)放送　月曜日午後八時半から」

日本語放送会では来週月曜日午後八時半から九時半までの放送に、布哇では初めての試みである旧劇を放送する　芸題は『菅原伝授手習鑑』　出演者は芦若、右田次の一座、全島ラヂオ、フアンの聴き遁せぬ所だ、当夜のプログラムは左の如し

一、話方「花咲爺」

マノア平和学園一年生　岡部　昇

二、同「乃木大将幼年時代」

マノア平和学園六年生　黒澤キヨノ

三、芦若、右田次聯合若嶋座歌舞伎芝居「菅原伝授手習鑑」

松王丸　実川　芦若
梅王丸　市川右田次
桜　丸　市川　市雀
杉王丸　中村　中王
時平公　中村　柵京
義太夫　勢見　太夫
はやし　杵屋　民丸

四、レコード　パラマ楽器店提供

五、報知電報ニュース

(昭和六年(一九三一)七月三一日『布哇報知』三面)

「『寺小屋』(ママ)放送の出演者』《写真あり》

去る月曜日夜ケー、エム、ビー局経由、日本語放送会主催で「寺小屋」を放送し全島ラヂオ、フアンより割るゝが如き賞讃を博した右田次、芦若一座の記念撮影、後列右より三人目は日本語放送会顧問栗崎市樹氏

(ケー、エム、ビー局放送室で田端写真館撮影)

(昭和六年(一九三一)八月七日『布哇報知』六面)

子ども向けのプログラムの次に配置されているあたりに、「教育的」な清く正しいものという位置づけの意図もあったのかもしれない。

さらに帰国間際の八月には、新派の久松秋水一座との合同公演も行われている。『布哇報知』には紙面に割引クーポン付広告が掲載され、売上向上を図っている。

「今晩から新旧芝居　日本館で開演する」

ホノルルに於ける唯一の舞台師金森事、春廼家一郎君は澤村商会、松尾精一、木村興行部、辻田賢造、田野中俊吉氏外世話人一同の後援にて来る二十日ジヤパン号にて帰国する歌舞伎若島座と久松秋水一座の新派劇を合同せしめ本十七日の晩から日本館に於て新旧両面劇を幕無しで見せる事になつた。之れは春廼家が舞台師満二十五年記念のための大芝居で入場料五十仙、二人つれ七十五仙と云ふ大勉強である。歌舞伎の方は今晩は仙台萩と市川右田次十八番の『引き窓』を出すさうである

▲今晩の芸題

旧劇「先代萩」全通し

同　「引き窓」

新派「波がしら」

（昭和六年（一九三一）八月一七日『布哇報知』三面）

「日本館の二日目芸題　新旧聯合劇」

今晩二日目の日本館に於ける新旧両面劇の芸題は左の如くである

一、近江源氏先陣館

一、新派劇「勇肌」

一、両面劇全通し

尚此の芝居を見に行く者は新聞の中に挟んである割引券を持参すれば一人五十仙、二人七十五仙で入場が出来る

（昭和六年（一九三一）八月一八日『布哇報知』五面）

「二人で七十五仙」という割引きに加え、このようなクーポンでも集客を懸命に図っていた。

八月二十日以降の『布哇報知』に若嶋座の興行記録は見えず、予定通り帰国の途についたものと思われる。

補遺・興行関連

日本との違いの一つが、ハワイにおける「日曜興行禁止」である。「安息日」として定義されていた日曜における演

劇興行だが、各方面からの要望のために実施が許可されることになる。それがちょうど若嶋座巡業中の昭和六年（一九三一）春のことであった。『布哇報知』のコラム「傘滴」に、その日曜興行許可の話題が上っている。

◇県会に上程されてゐた日曜興行許可案が通過して知事の署名を経て日曜興行オーライと云ふ事になつた。但し教育上、宗教上の為めになる演劇、即ち風教の害にならぬ教育的の演劇は興行してよろしいと云ふ条件が付いて居る《中略》

◇社会風教の上から見ると日本人の芝居は新□も歌舞伎も剣劇も勧善懲悪ならざるは殆ど無しだから理想的の興行物と云ふ理屈になる。然し従来は活動写真はオーライだが芝居はいけないと云ふ事になつて居る。然らば映画はすべて日曜日に興行しても宗教的であり教育的であるかどうか少なからず考へさせられる《以下略》

（昭和六年（一九三一）三月二九日『布哇報知』五面）

「教育上、宗教上の為めになる演劇」なら許可されるという条件付きとのことで、日本の進級演劇いずれもそれに叶っていると胸を張る一方、すでに日曜興行が認められていた活動写真に対して、「宗教」「教育」に失するものばかりとはいえないのに――という皮肉が暗に示されているように思われる。

歌舞伎興行に対しては、しばしば風俗紊乱の弊害を警戒する向きが示されることが多いが、学校が積極的に招聘したという例もある。募金集めなどにおいては、やはり集客力があったためであろうか。ハワイ巡業中の若嶋座も、教育関係団体から何度か招きを受けている。一部を紹介しよう。

「若島座を聘しマ校の校庭美化基金募集興行　父兄教師会主催で三十日と三十一日の両夜マ校講堂で」

マキンレー、ハイスクールに於ては、校庭の美化運動基金募集の為め父兄教師□が主催となり、目下パラマ天幕で大好評を博して居る歌舞劇（ママ）若島座一行を招き来る三十日と三十一日の両夜マキンレー講堂に於て芝居興行を行ふ事になつた。入場料は五十仙均一で両夜共午後七時半開催す。芸題は、初夜に『忠臣蔵』次の晩には『曾我物語』で大当りを期待されて居る（写真は第一に入場券を購めつゝあるジヤツド知事）《写真あり》

（昭和六年（一九三一）一月二一日『布哇報知』六面）

「ワヒアワ英語幼稚園　若嶋座を招聘演芸会を催す」
ワヒアワ英語幼稚園にては歌舞伎若島座を招聘し明二十一日と二十二日（日曜）の両夜ワヒアワ鳳梨座に於て基金募集演芸会を開催する事になつた。初日芸題は左の通りであるが二日目は観客希望の芝居を上演するさうである
▲初日芸題
序　幕　式三番
前狂言　一の谷嫩軍紀
中狂言　阿波の鳴門どんどろ大師
切狂言　矢口の渡し頓兵衛住家の段
（昭和六年（一九三一）二月二〇日『布哇報知』五面）

このような「学校に招聘」という実績を得たゆえか、「教育劇」との旗印を掲げた興行も見られる。

教育劇と銘打つて馬まで新調して開演した日本館の合同歌舞伎は塩原多助の続きを今晩も上演する（五十仙均一生）
（昭和六年（一九三一）六月三〇日『布哇報知』四面　「カバチ」）

寺社関係での奉納興行の例も複数見られ、当時のハワイでは社会的にも評価を受けていたと思われる。

個人の結婚式の記念行事として、劇場と一座を買い切っての特別興行に招かれたこともあった。成功者の羽振りの良さが垣間見える事例である。

「ワヒアワで歌舞伎開演」
ワヒアワの本田商店主本田栄蔵氏は結婚満二十五周年に達するので銀婚式祝賀のため十九日と二十日の両夜ワヒアワ鳳梨座にて合同歌舞伎若島座一行を開演する。初日は大阪陣難波戦記と切狂言五條の橋を上演するさうである
（昭和六年（一九三一）六月一八日『布哇報知』二面）

また、興行師の「開業何周年」の記念興行に若嶋座が出演したケースもある。

「ワイアラエ　今晩の芝居　若嶋座出演」
ワイアラエ中野実氏主催の請負開業十周年記念歌舞伎芝居は今明両夜ワイアラエ二葉亭横の大天幕にて開演される。《略　芸題》尚既報の通り場内の佐敷取りは公平を保つため本日午後五時までに来た人が抽籤する事になつて居る。

（昭和六年（一九三一）二月二日『布哇報知』六面）

このような様々な形で、若嶋座の舞台はハワイの人々に享受されていたのである。

結び

以上、昭和五年八月から昭和六年八月までの『布哇報知』の記事を中心に、川棚芝居若嶋座のハワイ興行の記録を辿ってきた。その結果、若嶋座一行のハワイ滞在は、次の期間であることがほぼ間違いないことが分かった。

・昭和五年（一九三〇）八月二九日　日本出発
・昭和六年（一九三一）八月二〇日　ハワイ出発

その過程において、ハワイ移民の日系人に若嶋座の芸が、ひいては「歌舞伎」が、どのように受け止められてきたのか、リアルタイムの言葉で窺い知ることができた。広告等に散見する「大歌舞伎」という文言については、「日本国内ならそういう看板ではないのに」と、批判的にみられる向きもあるかもしれない。だが、義太夫狂言を初めとする数々のレパートリーを持ち、熱演でもってひとつひとつの舞台を勤めたこと、それが人々の喝采を浴びたことは間違いないだろう。ハワイ初の「歌舞伎のラジオ吹き込み」が果たされたのも、若嶋座の活躍あればこそだったのかもしれない。一地方の歌舞伎という枠を超えた、それが川棚芝居「若嶋座」であったのではないだろうか。

この昭和五―六年ハワイ巡業後の川棚芝居「若嶋座」について、地元の出版物から関連記事を紹介しておく。

昭和二六年（一九五一）四月に刊行された下関郷土史誌『ふく笛』第三号には、佐藤治が川棚役者たちへの聞き取りを通じてまとめた記事を載せている。

大正期に於ける川棚芝居の大黒柱の一人であつた中村喜鴈（本名福富市郎）は今から二十八年前病気療養の名によつて湯田に去り、昭和期にはいつてからは主に二代目中村玉六（昭和七年三月引退）、中村珊京、中村時松郎、市川太老、阪東調之助、三代目中村玉六、二代目松本いてうなどが僅かにこれを支えて行つた。／しかし川棚芝居の全盛は何といつても明治期であつて、大正から昭和に移つてからは段々その人気も下り坂となり、座の経営も決して豊かだとはいえなかつ

た。勿論その間昭和五年一年間の予定でハワイにまで遠征したことは地方劇団としては珍しい壮挙で、そうしたことがあつた後暫くは川棚芝居も興隆の一途をたどるやに見えたが、その後は兎角沈滞状態が続き、その上座の花形女形であつた二代目松本いてうが行橋の劇場で倒れてからは（昭和十二年）益々座の魅力もうすれ、遂に昭和十三年一応これを解散することになつたのである。

（昭和二六年（一九五一）四月五日『ふく笛』一五頁）

本稿で見てきた『布哇報知』では、時には写真入りで華々しい扱いをされていた若嶋座だが、その後わずか七年ほどで解散を余儀なくされたというのが地元での実情であった。この記事の続きによれば、解散当時の座員は二〇人はいたものの、その後は他界や移動のために減少し、昭和二六年時点では役者六人、囃子方二人、太夫方三人を数えるのみとなった。その後は「頼まれるまゝに或る時は地方芝居に雇われて脚光を浴び、又或る時はその振付け指導を引受けたりして僅かに往年を偲んでいた」（前掲『ふく笛』）という。また一部の好事家や団体の勧めもあって、昭和二三年から二五年にかけて、長府公会堂や川棚小学校などで公演も行っている。中村珊京は、この二六年当時に七四歳に達していたが、まだ意気軒昂たるものであったと記されている。

その四年後の昭和三〇年（一九五五）、朝日新聞下関支局長であった原田磯夫は、次のように記している。

明治、大正のころは道頓堀に進出したこともあり、満韓巡業、昭和五年にはハワイに遠征して一年間興行とつづけたほどの全盛期を誇つたこともあつた。／昭和十二年スター松本いてうが死んでから落目、翌年解散、帰農したりで座員バラバラ、発生の地高砂部落に帰つたものは七、八人。ときどき部落の余興に出たりする程度になつていたが、戦後もう一度関心を呼びもどし昨年はUGから「お染久松　野崎村の段」をマイクに載せたが、座頭中村珊京（本名吉岡奥太郎氏）も七十四歳本年四月に小串町小串座で珊京引退興行と相成つた始末。〝立派な郷土芸術ですよ。復活させたいものです〟と佐藤さん。村役場でもよりより何とかして復活させたいという話は出るが具体的な対策まではまとまつておらぬようだ。

（原田磯夫『馬関太平記』昭和三〇年（一九五五）朝日新聞下関支局刊　八九―九〇頁）

川棚芝居「若嶋座」は、一旦は幕を下ろした。だが、その活動の足跡や一座の資料は、いま近代演劇史の研究にとって新たな灯火となっている。

今回は紙幅の都合上、若嶋座のレパートリーについて検証することができなかった。これについては、また別の機会に報告することにしたい。

注

(1) 原田磯夫『馬関太平記』昭和三〇年（一九五五）朝日新聞下関支局刊　八九―九〇頁。

(2) 土井彌太郎『山口県大島郡　ハワイ移民史』「まえがき」より（昭和五五年（一九八〇）、マツノ書店、一頁）。土井は、山口県大島郡より多くの移民が生まれた背景について、「狭い耕地に過剰人口を抱え、しかも度々の凶作に見舞われる逼迫した生活環境の下で、万里の波濤を乗越え敢然と海外に進出する気骨が培養されてきたのであろう」（「まえがき」一頁）とし、明治一四年から始まった全国的な不景気と一六年の干ばつ、一七年の風水害によって村民が危機的な状況に陥った際に、ちょうどハワイ移民政策が持ち上がったためと述べている。

(3) この他にも中山延見子・嵐三五郎の歌舞伎一座、中村高三郎・片岡松右エ門の歌舞伎一座、近江二郎一座の剣劇、澤田義雄一座の剣劇、新派新聲劇団、浪曲の京山華千代、阪東三平・三壽次の銀座レビュー団、沖縄演劇などがハワイに来ている。

(4) 『川棚芝居覚帳』には、昭和初期の陣容が次のように紹介されている。

「一、こゝに便宜上現在の若島座に於ける重なる俳優と重なる義太夫下座を列記しやう。

俳優　中村喜雁、中村珊京、中村時待呂、市川太老、中村玉六、松本いてう、中村林司、阪東与三郎、市川中千代

義太夫　竹本品門太夫、豊沢団丸

下座　杵屋治郎、杵屋梅子、杵屋喜和子

外鳴物、床山等」

なお、「中村珊京」の漢字については、中村珊瑚郎との関わりも鑑み、「珊」が正しいものと考える。ただし『布哇報知』における「栅」の表記についてはそのままとし、「ママ」との注意書きを逐一施すことはしない。

(5) 請元の氏名や顔つなぎの様子までが現地で詳しく報じられている。

「歌舞伎芝居若嶋座一行　昨夜望月にて顔つなぎ

辻田賢三、栗崎ドクトル、金森政義三氏の招聘で去る三日浅間丸にて来布したる新渡来歌舞伎若島玉六一座の顔つなぎは昨夜望月にて催された。関係者及び新聞記者も招待されたが辻田氏の希望で挨拶抜きで晩餐に移り本社の後藤氏が請元万歳、日布の山本氏の若島座万歳、主人側に代つて原氏の来賓万歳あり、それから芸者及び少女の手踊りを皮切りに役者連が交る〴〵達者な踊りを見せた。一座は澤村徳八が連れて来た少女子役の外は全部男優である所に歌舞伎としての興味を

惹く、来る十日（金曜）からオアフ劇場で開演、毎夜六時半に始めて早く打出す筈で、衣裳かつら全部新調に加へて舞台も特別大掛りに拵へるさうだから必ず人気を独占するであらふ。」（昭和五年（一九三〇）一〇月七日『布哇報知』四面）

（6）昭和五年（一九三〇）一〇月一一日『関門日日新聞』夕刊「演芸界」の記事によれば、山口市の山口座において「十一日より四日間大阪大歌舞伎中村喜雁一行開演」とあり、川棚ではなく大阪の役者という位置づけで活動していたことが窺える。同じく『関門日日新聞』昭和六年（一九三一）二月一日夕刊「演芸界」では、下関市の大山劇場で「片岡九蔵　中村喜鴈一行の大合同歌舞伎」が紹介され「一行独特の『玉藻前金毛九尾狐の由来』天竺の巻、支那の巻、日本の巻　全通し中村喜雁□一人七役早変りの由」とある。この『玉藻前』は、川棚芝居の十八番の一つである。

（7）当時の若嶋座で幹部クラスと目されていた。病気のため巡業には遅れて参加している。

「日本館で近々開演　若島座へ新手加入　中村時三郎が二十四日秩父丸で来布す

歌舞伎若島座が来布した当時病気のため居残つた一座の幹部俳優中村時三郎は来たる二十四日入港の秩父丸にて来布することに確定したので同優を加へて来たる二十七日（月曜）から向ふ六日間アヽラ街日本館に於て再び開演と決定した／入場料は観客一般の希望もあり、リザーブ席なしで一弗均一の入りこみと子供二十五仙ときまつた。重要な幹部俳優が一枚加はるので一層見ごたへのある芝居となるであろふ、且つ一弗均一の入場料は一般に気受けがよい《以下芸題・役割》」（昭和五年（一九三〇）一〇月一九日『布哇報知』五面）

（8）『布哇報知』昭和二年（一九二七）九月一〇日四面には、紙面の三分の二を占める広告が打たれ、総勢一五名のうち「座長市川右田次」を初めとする一一名の顔写真が掲載されている（一部欠損あり）。女優としては「中村志津子」「成駒家春吉」、子役であろう少女「中村房子」の名が見える。その他、「澤村宗七郎」「山村内近」「尾上多三郎」「片岡嶋右衛門」「豊竹《欠損》」「澤村徳昇」、そして幼い「市川ぼたん」（同年八月七日四面では「子役山村二郎」と紹介されている）が名を連ねている。入場料は、税込で「特等　三弗／一等　二弗二十仙／二等　一弗六十五仙／三等　一弗十仙」とあり、日本館での幕開けであった。なお、同広告には興行会社の口上も掲載されている。

「今般マニラ興行会社と西村興行部と合併致し大和興行会社と改称し是れが披露の為め予て交渉中の日本歌舞伎界に於て名声嘖々たる／大阪名優……／市川右田次一座を／招聘し愈々来る九月十五日より／日本館に於て開演可致候就て芸題の選擇はもちろん座員一同大車輪にて相勤め候間何卒賑々しく御来観の栄を賜り度奉願上候　敬白／主催大和興行会社　吉永喜平　西村長一」

（9）「若嶋座開演　二十四日から

布哇及び馬哇（マウイ）両島巡業中であつた歌舞伎若島座一行は今朝の便で帰府したが来る二十四日から二十六日まで三日間日本館に於て歳末興行を開演する」（昭和五年（一九三〇）一二月二二日『布哇報知』二面）

(10) 昭和四年（一九二九）時点の「布哇日本人人名住所録」をもとにした飯田耕二郎の分析によれば、移民者の主な出身地は次のとおりである（『ハワイ日系人の歴史地理』ナカニシヤ出版、二〇〇三年、三五頁）。なお、下のパーセンテージは移民者全体（三五、八二五人）中の割合を示す。

第一位　広島県（九、三八四人）　二六・二％
第二位　山口県（七、四八一人）　二〇・九％
第三位　熊本県（五、七六三人）　一六・一％
第四位　沖縄県（四、四六八人）　一二・五％
第五位　福岡県（二、一六〇人）　六・〇％

広島・山口の二県で、全体の約四七％を占めている。

(11) 阪東三壽次は、昭和六年三月二二日より『布哇報知』でコラムの連載も手掛けている。

(12)「レビュー団　阪東三平来社」（『布哇報知』昭和五年（一九三〇）一二月一〇日　四面）による。

附記

本稿の作成にあたり、貴重な資料の閲覧をお許しくださった山口県立図書館、下関市立中央図書館、下関市立長府図書館、烏山民俗資料館、山口市立図書館、国立国会図書館には心より感謝致します。

佐藤順氏には御尊父　佐藤治氏の業績を御教示賜りました。世良利和氏、小川國治氏には、史料に関する御助言を頂きました。この場をお借りして篤く御礼を申し上げます。

【図版はインターネット非公開】

図１　『布哇報知』昭和５年（1930）10 月９日（2 面）

【図版はインターネット非公開】

図 2 『布哇報知』昭和 5 年（1930）10 月 26 日（5 面）

【図版はインターネット非公開】

図 3 『布哇報知』昭和 6 年（1931）3 月 22 日（5 面）